

プレスリリース

杉本博司 アートの起源 [建築]

2011年3月6日（日）－ 5月15日（日）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会に関するお問い合わせ及び資料のご請求先：

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団*

担当＝中田耕市、河内田絵美

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1

tel:0877-24-7755 / fax:0877-24-7766 / e-mail:mimoca_info@mimoca.org

【展覧会概要】

展覧会名： 杉本博司 アートの起源 | 建築

Hiroshi Sugimoto ORIGINS OF ART | Architecture

会場： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

会期： 2011年3月6日（日）－5月15日（日）会期中無休（71日間）

開館時間： 10時－18時（最終入館17時30分）

主催： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団

協力： 財団法人小田原文化財団、ギャラリー小柳

観覧料金： 一般950円 [760円] 大学生650円 [520円]（常設展観覧料を含む）

※ [] 内は前売り及び20名以上の団体料金

年間パスポート2,500円（常設展観覧料を含む）

※2011年11月6日までの会期中、お一人につき何回でも使用可能

高校生以下または18歳未満・丸亀市内在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

**4月9日（土）および5月14日（土）はコーポレーション・デイ（企業協賛日）のため
観覧無料**

前売券販売場所：

〔丸亀〕 あーとらんどギャラリー（0877-24-0927） オークラホテル丸亀（23-2222） おみやげSHOP ミュ
ー（22-2400） きままや（22-9361）

電子チケットぴあ〔サークルK・サンクス、セブンイレブン〕（Pコード：764-160）

【展覧会趣旨】

一年まるごと杉本博司 「杉本博司 アートの起源」第2弾

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（MIMOCA）では、1つの美術館で一人のアーティストについて、一年にわたり4つの展覧会を次々に開催するという画期的なプロジェクト「杉本博司 アートの起源」が2010年11月21日よりはじまりました。

「杉本博司」とは？

杉本博司（1948年東京生まれ）は、ニューヨークを拠点に活動する現代美術家です。中央に水平線をはさみ空と海が上下に半分ずつ写された《海景》という写真作品が特によく知られています。「原始人の見ていた風景を、現代人も同じように見ることは可能か。」という考えをもとに制作されたこの作品は、世界中で絶賛されました。このほか、博物館のジオラマ展示を撮影し、写真の性質を利用していかにも生きているように表現してみせた《ジオラマ》シリーズや、映画館のスクリーンに向かってカメラを構え、映画のはじめから終わりまで1本分の光を一枚の写真に収めた《劇場》シリーズ、京都の三十三間堂で1001体の千手観音を撮影した《仏の海》など、写真というメディアを追究し、考え抜かれたコンセプトと最高の技術によって生み出した美しくも力強い杉本の表現は、人々を魅了し続けてきました。2009年には世界の優れた芸術家に贈られる高松宮殿下記念世界文化賞を「絵画」部門で受賞、「写真」が絵画芸術として認められた記念すべき出来事として注目を集めました。

この奥深い杉本芸術の全貌を探り、余すところなく堪能するために、内容の異なる4つの展覧会を開催いたします。

「アート」の起源とは？

“今、読めない先を見るためには、振り返らなければならない時がきたのだ。”

いつの時代も優れたアート（芸術）は未来へつながる新しい道を切り開いてきました。けれどもこの悩める時代、アートはむしろ過去を振り返らなければならない、と杉本は考えています。アートの起源を辿ることで見えてくるもの、それはとりもなおさず人間の意識の起源ではないか、そこにこそ今を生きるヒントがあるのではないかと言うのです。

意識の起源をさかのぼった杉本は、私たちの心の最も奥底に根ざすものとして4つのキーワードを見つけました。科学、建築、歴史、宗教。これらが4つの展覧会のテーマとなって、「杉本博司 アートの起源」は開催されます。

第2弾は「建築」

初回の「科学」に続き第2回展となる本展では、写真を主軸としながらもさまざまな表現にとりくむ杉本の活動のうち、「建築」に焦点を当て、写真作品のほか建築作品の雛形やインスタレーションなどをご紹介します。特に当麻寺三重塔の古材を用いたインスタレーション《反重力構造》や蠟燭の炎を燃え尽きるまで撮影した《陰翳礼賛》など、当館の建築空間を活かして展示される作品が本展の大きな見どころの一つとなります。さらに、杉本がつくり出した作品や展示空間を通して、杉本がいかに構造や空間を捉え作品へと昇華させてきたのか、本展はその手がかりを提示すると同時に、私たちにアートの起源、ひいては人間の意識の起源としての「建築」を問いかけるものとなることでしょう。

【主な出品作】

｜反重力構造｜

天平時代に創建された当麻寺（奈良県）の国宝・三重塔（東塔）を撮影し、原寸大に組み上げた写真作品9点と、明治35（1902）年の全面解体修理の際に新材に交換されるまで、およそ1200年にわたって用いられた「天平の古材」で構成され、1階の吹抜部分、高さ14mの空間に設えられます。加えて2階の展示室Bには、本作品の一部、電磁誘導の磁力によって重力に抗し浮かび続ける3色の球を展示。

｜建築｜

近代以降の名建築を大判カメラで撮影したシリーズ〈建築〉より6点を展示。敢えて焦点距離の設定を「無限の倍」にずらして撮影された写真は、何処にも焦点が合わず残像のようにぼけています。ディテールや夾雑物を排すことで、建築家の頭の中にあっただであろう初期段階の着想がそのまま写し出されているようにも、あるいは完成した建築物の本性が写真の中に立ち現れてくるようにも見えます。

｜数学的形体｜

19世紀末、ヨーロッパの数学者たちは、数式によって定義される曲面を石膏による立体模型で表しました。この数理模型の一部は明治期に日本に輸入され、現在、東京大学総合研究博物館に所蔵されています。芸術作品として制作されたものではなく、純粋な思惟から導き出された合理的な幾何学的対象を可視化する目的でつくられていますが、杉本はこの数理模型に宿る美を見出し、写真作品として提示しています。

| 醍醐寺幔幕写し |

天下人豊臣秀吉は晩年、応仁の乱以来荒廃していた醍醐寺の復興に取り組みました。この作品は、慶長3(1598)年、その五重塔の再建を祝して催された壮大な宴「醍醐の花見」にて使用されたとされる桐紋の幔幕を、杉本の指揮により当時の技法「砧打ち」や「辻が花染」を用いて再現したものです。露天の場を区切るために張り巡らす、つまり内と外とを隔て、内部領域を確保するために用いられる幔幕は我々に「建築」の起源を思い起こさせるでしょう。

| 陰翳礼賛 |

人類の進化を推進した炎。蠟燭に火がともされ、その炎が燃え尽きるまで露光し続け、その光と闇を杉本は1枚のフィルムに写しとりました。本展では約12年ぶりに実際の蠟燭を灯した空間にて展示されます。フィルムに残された炎の像は蠟燭に照らされ、再び奥の壁面に姿を現すのです。その光景は、火を使うようになった我々の祖先がかつて洞窟で過ごした夜の記憶へと遡っていくでしょう。

※出品作品の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、担当までお問い合わせください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

[関連プログラム]

■対談：谷口吉生・杉本博司 ※終了しました

当館の設計者である建築家の谷口吉生氏と、その空間で展覧会を開催する杉本博司氏による対談。

日時：4月1日(金) 19:00-

場所：2階ミュージアムホール

料金：無料

定員：200名

※当日14時より当館1階受付にて整理券を発行いたします(お一人様2枚まで)。当日は19時まで開館いたします。

■キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター(中田耕市・河内田絵美)が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の日曜日 各日14:00-

参加無料、ただし展覧会チケットが必要です。

申込み不要、当日1階受付前にお集まりください。

■地域連携プログラム 「アートの起源サポーター」募集

一年間にわたって一人の作家を紹介するという画期的な取り組みを進めるにあたり、展覧会を応援いただく「丸亀市民特別サポーター」と「アートの起源サポーター」を募集しております。ご応募いただいた方には杉本博司作品《放電場128》(2009)をあしらったサポーター限定バッジと、特製「千客万雷(せんきゃくばんらい)カード」をお渡しします。特別割引券となっているこのカードを友人・知人の方に配布いただき、より多くの方に本展をご覧いただけるよう周知にご協力いただきます。この地域連携プログラムを通して、本展を基点に人と人との交流の場がさらに広がっていくことを企図しています。

1. 丸亀市民特別サポーター

【応募資格】丸亀市内在住・通勤・通学の方

※MIMOCA FRIEND（ミモカフレンド）会員の方に限り丸亀市外在住の方もご応募いただけます。

【募集人数】110人 ※定員間近

【応募期間】募集中（先着順・定員に達し次第終了）

【特典】

1. 会員証として杉本博司作品《放電場 128》をあしらった丸亀市民特別サポーター限定バッジの贈呈
2. 観覧料 20%割引
3. 展覧会カタログ 20%割引
4. プレビューイベントまたは内覧会にご招待（同伴者1名）
5. 千客万雷カードを配布した100名全員がご来館されると、もれなく杉本博司サイン入り展覧会カタログを贈呈
6. 千客万雷カード持参の方がご来館されると、1枚につき1口として、「杉本博司 アートの起源」関連景品が当たる「サポーター大抽選会」に自動的に応募（前期5月15日までの抽選結果は5月15日に発表。後期5月29日～11月6日の景品や抽選日等の詳細は後日発表いたします）。

【応募方法】応募用紙に必要事項を記入いただき、美術館受付にてご入会ください。FAX（0877-24-7766）、郵送でもお申し込みいただけます。後日サポーター限定バッジと千客万雷カードをご送付いたします。

2. アートの起源サポーター

【応募資格】どなたでもご入会いただけます。

【応募期間】募集中（千客万雷カードがなくなり次第終了とさせていただきます。）

【特典】

1. 会員証として杉本博司作品《放電場 128》をあしらったサポーター限定バッジの贈呈
2. 観覧料 20%割引
3. 展覧会カタログ 10%割引
4. 千客万雷カード持参の方がご来館されると、1枚につき1口として、「杉本博司 アートの起源」関連景品が当たる「サポーター大抽選会」に自動的に応募（前期5月15日までの抽選結果は5月15日に発表。後期5月29日～11月6日の景品や抽選日等の詳細は後日発表いたします）。

【応募方法】応募用紙に必要事項を記入いただき、美術館受付にてご入会ください。

■コーポレート・メンバーシップ・プログラム

「杉本博司 アートの起源」の会期中、毎月第2土曜日に実施する「コーポレーション・デイ」にご協賛いただける企業（法人及び個人事業主）を募集します。ご協賛企業のサポートで地域住民の皆様を展覧会にご招待いただく「コーポレート・メンバーシップ・プログラム」は、企業の地域貢献活動を同時にアピールいただける魅力的なプログラムとなっております。

〈コーポレーション・デイとは？〉

4社または4口以上のコーポレート・メンバー様にご協賛いただくことによって、毎月第2土曜日に地域の方々を当館にご招待するという地域連携プログラムです。ご来館の方には当日無料で展覧会をご覧ください。

【ご協賛金】1口5万円

【特典】

1. 代表者を含む5名様を特別内覧会へご招待
2. 当館公式ウェブサイト及びメールニュース等での告知
3. 協賛看板の設置：コーポレーション・デイ当日、美術館1階ゲートプラザに設置する看板に社名（またはロゴ）を掲示。4口同時にお申込みの場合は1社にて専有。
4. 広報媒体の配付：コーポレーション・デイ当日、来館者全員に広報媒体を配付。

【申込方法】電話（0877-24-7755）またはメール（mimoca_info@mimoca.org）でお申込ください。7月以降について先着順にてご応募受付中です。

【留意事項】

1. 協賛金はコーポレーション・デイにご来館いただいたお客様の観覧料及び施設運営費に充填させていただきます。
2. コーポレーション・デイの実施には合計4社または4口以上のお申込みが必要です。

【実施状況】

2010年12月11日（終了）	ご協賛：四国化成工業株式会社、平和写真印刷株式会社
2011年1月8日（終了）	ご協賛：社団法人香川県資源研究所
2011年2月12日（終了）	ご協賛：協和化学工業株式会社
2011年4月9日（実施決定）	ご協賛：秋山興産株式会社
2011年5月14日（実施決定）	ご協賛：今治造船株式会社、大倉工業株式会社
2011年6月11日（実施決定）	ご協賛：おみやげSHOP ミュー、株式会社ベネッセホールディングス 社会福祉法人 禱友会 紅山荘
2011年7月9日	募集中
2011年8月13日	募集中

※先着順にてお受付いたします。規定口数（5口）に達し次第、締め切らせていただきますので予めご了承ください。

【同時開催 常設展】

猪熊弦一郎展 身体の表現 2011年3月6日（日）－5月15日（日）

【今後の開催予定】

杉本博司	アートの起源 [歴史]	2011年5月29日（日）－8月21日（日）	会期中無休
杉本博司	アートの起源 [宗教]	2011年8月28日（日）－11月6日（日）	会期中無休

〔作家略歴〕

杉本博司 / Hiroshi Sugimoto

〈略歴〉

1948 年 東京都に生まれる
1970 年 立教大学経済学部卒業
1972 年 ロサンジェルスのアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン卒業
1974 年 ニューヨーク移住
1988 年 毎日芸術賞受賞
2001 年 ハッセルブラッド国際写真賞受賞
2009 年 高松宮殿下記念世界文化賞受賞
2010 年 秋の紫綬褒章受章
ニューヨーク在住

〈主な個展〉

1995 年 「杉本」(メトロポリタン美術館、ニューヨーク／世界巡回)
2000 年 「杉本 肖像写真」(ドイツ・グッゲンハイム、ベルリン／グッゲンハイム美術館、ビルバオ／ソロモン・R・グッゲンハイム美術館ソーホー、ニューヨーク)
2001 年 「杉本博司 時の建築」(ブレゲンツ美術館、ブレゲンツ)
2003 年 「杉本博司 建築」(シカゴ現代美術館、シカゴ)
2004 年 「杉本博司 大ガラスが与えられたとせよ」(カルティエ現代美術財団、パリ)
2005-07 年 「杉本博司 時間の終わり」(森美術館、東京／「杉本博司」と題しアメリカ巡回)
2006 年 「観念の形 数理模型」(アトリエ・ブランクーシ ポンピドー・センター、パリ)
2008-09 年 「杉本博司 歴史の歴史」(金沢21世紀美術館、金沢／国立国際美術館、大阪)
2009 年 「杉本博司—光の自然」(IZU PHOTO MUSEUM、三島)
ほかにグループ展多数出品

〈主な所蔵先〉

ニューヨーク近代美術館 (MoMA) (ニューヨーク)
メトロポリタン美術館 (ニューヨーク)
グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク)
テートギャラリー (ロンドン)
ポンピドー・センター (パリ)
東京国立近代美術館
東京都写真美術館
国立国際美術館 ほか多数

〈主な著作等〉

・著作

『現な像』(新潮社、2008 年)
『苔のむすまで』(新潮社、2005 年)

・作品集

『杉本博司—光の自然』(IZU PHOTO MUSEUM、2009 年)
『歴史の歴史』(新素材研究所、2008 年)
『HIROSHI SUGIMOTO』(森美術館、2005 年)
『Hiroshi Sugimoto CONCEPTUAL FORMS』(カルティエ現代美術財団、2004 年)
『Hiroshi Sugimoto: Architecture』(シカゴ現代美術館、2003 年)
『HIROSHI SUGIMOTO: ARCHITECTURE OF TIME』(クストハウス・ブレゲンツ、2002 年)
『SUGIMOTO PORTRAITS』(グッゲンハイム美術館、2000 年)
『TIME EXPOSED HIROSHI SUGIMOTO』(クストハレ・バーゼル、1995 年)